

# 経済・金融フラッシュ

No.07-129 2007/12/28

## 鉱工業生産 07年11月～2ヵ月ぶりの低下だが、堅調維持

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

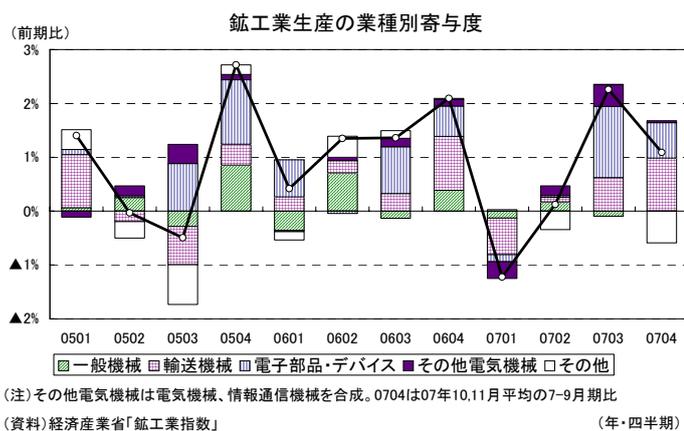
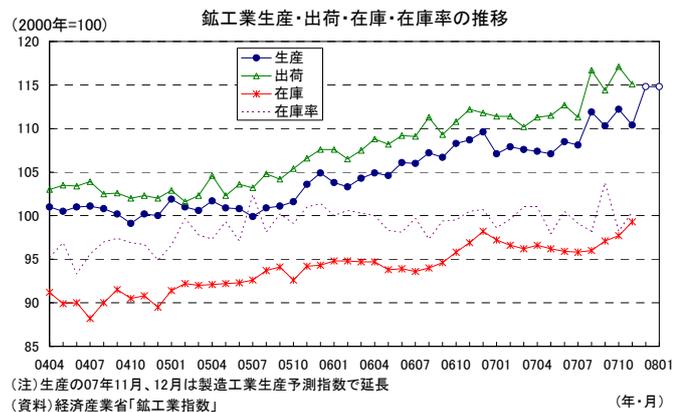
### 1. 生産指数は2ヵ月ぶりの低下

経済産業省が12月28日に公表した鉱工業指数によると、11月の鉱工業生産指数は前月比▲1.6%と2ヵ月ぶりの低下となり、ほぼ事前の市場予想（ロイター集計：前月比▲1.7%、当社予想は▲2.0%）通りの結果となった。出荷指数は、前月比▲1.7%と2ヵ月ぶりの低下、在庫指数は前月比1.6%と4ヵ月連続の上昇となった。

11月の生産を業種別に見ると、一般機械が前月比▲5.6%と大幅な低下となったほか、電子部品・デバイスが同▲2.0%、輸送機械が同▲1.0%となるなど、速報段階で公表される16業種中、11業種が前月比で低下（5業種が上昇）となった。

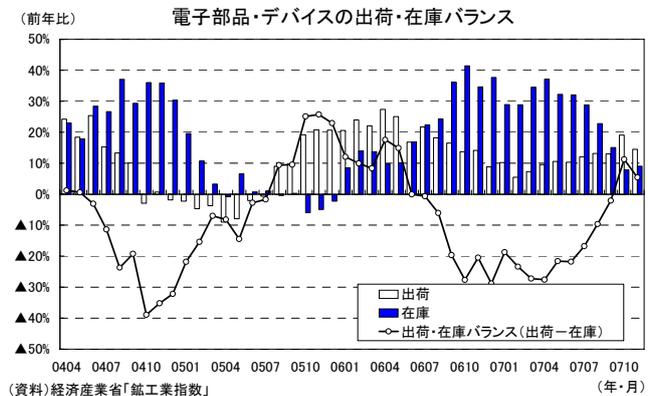
ただし、一般機械などの減少幅は、前月の上昇幅に比べれば小さなものにとどまっており、いずれも反動減の範囲内と判断される。

一方、建築基準法改正に伴う建築着工の落ち込みの影響から、窯業・土石（建設財のウェイト：60%）は前月比▲1.6%と5ヵ月連続の低下となった。

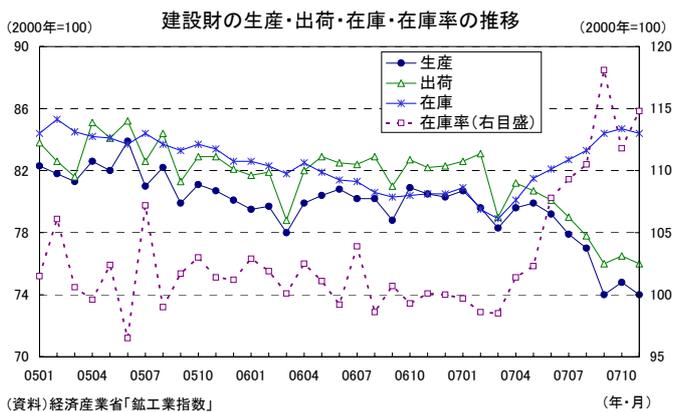


## 2. 10-12月期の生産は前期比2%近い伸びとなる見込み

電子部品・デバイスの在庫指数は前月比▲1.2%と4ヵ月連続で低下したが、前年比では9.0%と積み上がり幅が若干拡大した(10月:同7.9%)。出荷は前月比▲2.0%と6ヵ月ぶりの低下、前年比では14.5%の上昇(10月:同19.1%)となり、出荷・在庫バランス(出荷・前年比-在庫・前年比)は5.4%(10月:同11.2%)となった。前月に続きプラスは維持しており、在庫調整圧力は低下しているが、この分野は供給能力の増強ペースが速く、世界的な需給動向に左右される面が強いため、今後の動向には注意が必要だろう。



建築基準法改正に伴う建築着工の落ち込みから低迷が続いている建設財は、生産、出荷ともに2ヵ月ぶりの低下となった(それぞれ前月比▲1.1%、同▲0.7%)。在庫は前月比▲0.4%と8ヵ月ぶりの低下となったが、在庫率は前月比2.7%と2ヵ月ぶりの上昇となった。



建設財の在庫調整圧力は依然として強いものの、7月以降、大きく落ち込んでいた建築着工が10月から持ち直しの動きを見せていることは明るい材料と言える。

製造工業生産予測指数は、12月が前月比4.0%、08年1月が同0.0%と強めの数字となった。日銀短観12月調査では、大企業・製造業の景況感が悪化したため、生産計画の抑制につながることも懸念されていたが、現時点ではその兆候は見られない。

11月の生産指数を12月の予測指数で先延ばしすると、10-12月期の生産指数は前期比2.2%の上昇となる。最近の鉱工業生産の実績値は予測指数の伸びを下回る傾向があるため、この数字は割り引いて見る必要はあるものの、7-9月期の前期比2.2%に続き、10-12月期も前期比2%近い伸びとなる可能性が高まった。景気の先行き不透明感は高まっているが、好調な輸出を背景として鉱工業生産は堅調を維持していると判断される。

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)